

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふりーくらぶりんごあめ教室		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 10日		～ 2025年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年 2月 10日		～ 2025年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	曜日ごと、およびグループ内の他事業所と、別々のプログラムを設定し、多様なニーズに応えられる体制を整えている。	グループ内の他事業所が高学年向けの放デイを行っているの で、当教室で学習や運動、コミュニケーションの土台を作り、 発達状況に応じて適切なプログラムを提供できるようサポート している。	現状のプログラムでの児童たちの成長を見ながら、より楽し めるものやより療育効果が高い内容を臨機応変に検討してい く。
2	学校休業日を中心に積極的に外出活動を行い、普段できない体 験を通して楽しんでもらいながら成長を促している。	緑地公園での運動、工場見学などでの学習など、内容をロー テーションさせて飽きがこないよう毎月外出先を検討してい る。	行ったことのない外出先も積極的に試し、児童や保護者の反 応も見ながら魅力的なスケジュールを発信していく。
3	多様な活動の中で児童同士のコミュニケーションを促し、社会 の中でいろいろな人と関わっていけるよう訓練している。	学年や学校、趣味嗜好等が異なる児童同士でも仲良く遊べるよ う、スタッフが橋渡ししながら輪を広げられるよう支援してい る。	児童たち同士でやりたいことを一緒に考えるなど、社会性の 一環として自主性も育んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との連携が不十分である。	基本的には事業所のスタッフ・児童で楽しめるプログラムを提 供している。	事業所の責任者同士や相談支援つてのつながりを生かし、合 同イベント等も検討する。
2	家族支援のうち、保護者同士が関わる機会を提供できていな い。	保護者のお悩みやご相談に対しては個別対応がメインで、都度 お応えしている。	同じお悩みを持った保護者同士をつなげて不安を和らげても らったり、うまくいった子育て方法を共有してもらったりす るような、保護者会の実施も検討する。
3	訓練やマニュアル等、非常時に備え取り組んだり整備してい るものはあるが、十分に認知されていない	毎月の通信紙で活動内容をお伝えしているが、楽しい様子メイ ンのお伝えになっている。	ホームページを構築したので、通信紙ともリンクさせながら 積極的に情報発信を行っていく。